

機械器具 51 医療用嘴管及び体液誘導管
高度 心臓・中心循環系用カテーテルガイドワイヤ 35094114
*(血管用カテーテルガイドワイヤ 35094103)

IVR ガイドワイヤーII

再使用禁止

【警告】

*＜使用方法＞

- ・ 本品は、インターベンショナルラジオロジー (IVR) の手技に精通した医師*(十分に訓練を受けた専門医)が必ずX線透視下で使用する。[手技に精通していないと操作や判断を誤り、血管損傷の原因となり、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- *・本品は精巧に作られているので、本品をホルダーから取り出す時やシェイピング時など十分注意し、慎重に取り扱うこと。本品の先端をシェイピングする際は、必ず十分にぬれた状態でゆっくり慎重に行なうこと。[スプリング部の伸びやコアの折れ曲り及び、コーティングの剥がれなどが発生する恐れがある。]
- ・ 本品の使用は、緊急の外科手術を素早く行うことができる施設で行うこと。[緊急の外科手術が行なえないと、最悪の場合、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- ・ 先端は血管選択性に優れているが、高い血管穿通力があるので、細い血管に挿入する際、又はマイクロカテーテル等を追従させる際には慎重な操作をすること。[慎重な操作を怠った場合、血管損傷などの恐れがある。最悪の場合、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- ・ 本品には滑り性能を高めるよう親水性コーティングを施している為、十分に注意して取り扱うこと。[慎重な操作を怠った場合、血管穿孔を起こす可能性がある。***最悪の場合、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。**]
- ・ 本品を留置されたステント本体の内腔に通過させる場合は、ゆっくり注意深く行うこと。[ステントのずれ、損傷や本品の破損、切断の可能性*ある。最悪の場合、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- ・ 操作不能となった疑いがある場合、無理な操作はせず、不具合・有害事象に充分注意し、慎重にシステムごとの抜去を行うこと。システムごとの抜去により不具合・有害事象が発生すると判断される場合、直ちにインターベンショナルラジオロジー (IVR) を断念し、緊急外科手術の処置を医師の判断の下で実施すること。[原因がわからないまま操作をすると、本品の破損や断裂及び血管損傷などの恐れがある。最悪の場合、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- ・ 術中は患者の状態を考慮して適切な抗凝固あるいは抗血小板療法を行うこと。[適切な療法を行わないと、場合によっては血栓が発生し、*有害事象を引き起こす可能性がある。最悪の場合、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- ・ 併用する医療機器及び薬剤の添付文書及び取扱説明書を必ず参照すること。

【禁忌・禁止】

- ・ 再使用禁止
- ・ 再滅菌禁止

<適用対象>

- *・ 本品はインターベンショナルラジオロジー (IVR) 用である。
- ・ 脳血管*及び冠動脈には使用しないこと。[脳血管や冠動脈用に設計されていないため、安全性は確認されていない。]
- <適用対象(患者)>
- ・ 妊娠している、あるいはその可能性がある患者には使用しないこと。[X線造影による胎児への影響が懸念される。]
- ・ 緊急外科手術に適応できない患者、造影剤等施術に必要な薬剤に対して重篤なアレルギー反応を示したことがある患者には使用しないこと。[生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]

- ・ バイパス術に適応できない患者には使用しないこと。[急性期虚血性合併症を生じたときに緊急バイパス術を必要とするため。]
- ・ その他、医師が不適と判断する患者には使用しないこと。[上記の患者に適用した場合、症状悪化の恐れがあり、最悪の場合、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]

<併用医療機器>

- ・ 本品を挿入、抜去する際、絶対に金属針や金属外套管などを使用しないこと。[*本品表面を著しく損傷する恐れがある。]
- ・ 金属部分が直接本品表面と接触する可能性があるカテーテル類*(アテレクトミーカテーテルや金属ダイレーター等)との併用はしないこと。[本品の破損、*断裂の可能性がある。]
- *・ 2本以上のガイドワイヤーを使用したステント留置や、ステントストラットを通してのワイヤー操作は行わないこと。[ステントの損傷や本品の破損、断裂の恐れがある。]
- ・ 併用するカテーテルへの挿入時に抵抗を感じるようなカテーテルとの併用はしないこと。[併用するカテーテルの中には先端内径の許容誤差により操作中に本品の潤滑性が損なわれる可能性がある。]
- *・ 活栓付きガイディングカテーテルを併用する際本品又はカテーテルを操作している最中に、活栓操作は絶対に行わないこと。[本品又はカテーテルが破損する可能性がある。]
- ・ 300cm未満の本品はエクステンションワイヤーと接続可能である。ただし、朝日インテック社製のエクステンションワイヤー以外とは接続しないこと。[本品の破損又はエクステンションワイヤーが使用中に離脱し、本品の操作が不能となる可能性がある。]
- ・ 有機溶剤を含んだ薬剤及び油性造影剤の使用、併用をしないこと。[本品が破損する可能性がある。]

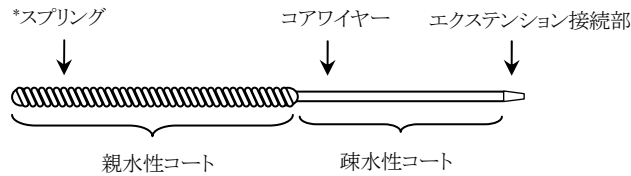
<使用方法>

- ・ 目的の是非を問わず本品を改造しないこと。[*本品が破損する可能性がある。]
- *・ 本品の表面をアルコール類、グルコン酸クロルヘキシジン水溶液等に浸したり、これらを浸したガーゼ、脱脂綿等で拭かないこと。また、乾いたガーゼや脱脂綿などで拭かないこと。[表面の潤滑性を著しく低下させる原因になる場合がある。]使用する際は、ヘパリン加滅菌生理食塩水で表面を必ず湿らせてから用いること。
- ・ 本品の同一箇所を繰り返して曲げ伸ばしたり、湾曲した血管内で長時間連続して回転させたりしないこと。[本品の破損、断裂の可能性*ある。]
- *・ 細い血管内で本品を使用する場合、トルク操作は慎重に行うこと。また、急なトルク操作を行わないこと。抵抗を感じた場合は、無理に本品を回転させたり本品とカテーテルを同時に押し込んだりせず、慎重に本品およびカテーテルを同時に引き戻すこと。血管内でトルクをかける場合には、同じ方向に連続して2回転(720度)以上のトルク操作をしないこと。[本品の破損、断裂の可能性*ある。最悪の場合、生命にかかわる有害事象が発生する可能性がある。]

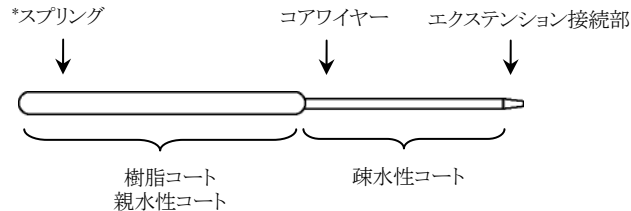
【形状・構造及び原理等】

＜形状＞

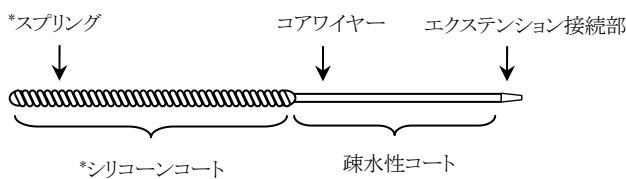
PAGH タイプ、**PH タイプ



PAGP タイプ、**PP タイプ



PAG タイプ



注：製品によりデザインは異なる。エクステンション接続部は 300cmの製品には存在しない。

**＜付属品の商品又は名称＞

・トルカー

※付属しない場合もある。

【原材料】

*ステンレス鋼、白金、PTFE、PVP、ポリウレタン、シリコン油

【使用目的、効能又は効果】

＜使用目的＞

本品は、X 線観察の為患部に造影剤注入の手段で用いられるカテーテル、或いは患部に「拡張」「閉塞」「生検」「ドレナージ薬剤注入」などの処置を施す手段で用いられるカテーテルを、目的とする部位に案内する為のガイドワイヤーである。
この為、本品の先端部は柔軟性、可撓性、及び回転伝達性を発揮できる構造をとっており、手技中に容易にそのワイヤー位置を確認できる様、X 線不透過性の金属がスプリング部に用いられている。

【品目仕様等】

引張強度 2.45N (250gf) 以上

※ 製品ごとの仕様については、各製品のラベルを確認のこと。

【操作方法又は使用方法等】

＜使用方法＞

*本品は、エチレンオキシドガスによる滅菌製品であるため、包装を無菌的に開封すれば、直ちに使用することができる。
但し、ディスポーザブル製品であるので、1 回限りの使用で再使用できない。

- 1) 本品をホルダーごと包装から取り出す。その際、本品の先端を折り曲げないよう注意する。
- 2) *ガイドワイヤーをホルダーチューブから取り出す前に、シリンジを用いて、フラッシュコネクターからヘパリン加滅菌生理食塩水をホルダーチューブ内に満たし、最低 30 秒間ガイドワイヤー全体を濡らすこと。但し、ホルダー先端からヘパリン加滅菌生理食塩水が吹き出る場合があるので注意すること。**先端保護チューブ付きホルダー(図1 参照)の場合は、先端保護チューブにシリンジを接続す

ることができる。

**先端保護チューブ付きホルダー

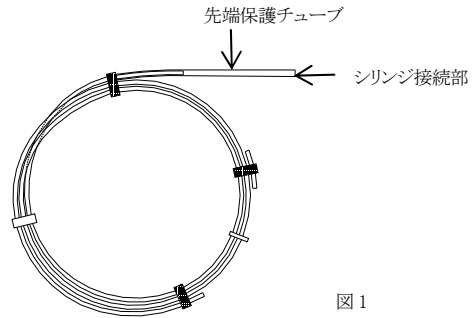


図 1

- 3) **ガイドワイヤー後端側のクリップからガイドワイヤーを外し、ガイドワイヤー手元部をガイドワイヤー先端部がホルダーから 5cm 程度出る位置までホルダー内へ押し込む。ガイドワイヤー先端部の突出した部分をホルダーチューブに最も近い位置で把持し、ゆっくりとガイドワイヤーをホルダーチューブから取り出す。
ホルダーから抜去する際、抵抗が感じられる時は、再度ホルダー内にヘパリン加滅菌生理食塩水を注入し、抵抗が感じられなくなったときに抜去する。親水性コート付きガイドワイヤーは無理に抜去した場合、親水性コートの破損が起きる可能性があるため、ヘパリン加滅菌生理食塩水をホルダー内へ十分に注入すること。
- 4) *本品を挿入する前には、併用するカテーテルにヘパリン加滅菌生理食塩水を十分注入する。
- 5) 本品の先端を、必要に応じて指先で形状付けをして使用する。ただしリシェイプはしないこと。
- 6) 本品の先端よりカテーテル内腔に挿入し使用する。ヘパリン加滅菌生理食塩水に浸したガーゼ等で本品を掴むと、操作が容易になる。

【使用上の注意】

＜警告＞

- *使用前に、本品がインターベンショナルラジオロジー (IVR) 周辺機器に適合していることを必ず確認すること。また、本品が破損又は断裂していないか目視確認すること。
- *使用前に本品の先端(スプリング部)、後端を確認し、必ず先端から挿入すること。
- *使用前に、本品先端の柔軟性、形状及びサイズが手技に適合しているかを確認すること。
- *本品表面の潤滑性を発揮させるために、使用前に必ず*ガイドワイヤー、ホルダー内、及び*併用するカテーテル内*腔にヘパリン加滅菌生理食塩水を注入し、全表面がぬれたことを確認してから取り出し、併用するカテーテルへの挿入を行うこと。カテーテルと本品の操作による血栓予防のため、カテーテル内*腔をヘパリン加滅菌生理食塩水等で灌流すること。
- ・本品の開封は必ず使用直前に行うこと。
- ・ **先端保護チューブ付きホルダー(図 1 参照)において、本品をホルダーへ再収納する場合は、あらかじめ先端保護チューブを取り外した状態で行うこと。

＜禁忌・禁止＞

- ・包装が開封されていたり、汚染や損傷が疑われる場合には、絶対に使用しないこと。
- ・破損又は断裂が認められた本品は絶対に使用しないこと。
- ・手技中、本品の先端に折れ曲がりが見られる場合は、折れ曲がったままの本品を操作しないこと。
- ・Y コネクターで本品を強く固定した状態で本品を操作しないこと。
- ・本品が血管内において何らかの抵抗が感じられた場合、本品に無理な力をかけないこと。X 線透視下で抵抗の原因を特定し、必要な処置を行うこと。

- ・本品が血管内で併用デバイスと抵抗がある場合は、無理な力をかけないこと。異常な抵抗がある場合には、システムごと体外に取り出し、抵抗の原因を確認すること。
- ・**先端保護チューブ付きホルダー(図1参照)において、本品がホルダーに収納されている状態で、先端保護チューブの抜き、挿しを行わないこと。

<重要な基本的注意>

- ・*本品の先端を形状付けする際には、ガイドワイヤーの表面がぬれた状態で慎重に行うこと。
- ・*本品の表面に付着した血液や造影剤はヘパリン加滅菌生理食塩水に浸したガーゼ、脱脂綿等で軽く拭き除去すること。
- ・*ホルダーから取り出す際には、必ず本品の後端部から取り出すこと。
- ・*使用する際は、ヘパリン加滅菌生理食塩水で表面を必ず湿らせてから用いること。
- ・*2本以上のガイドワイヤーを使用する場合、ガイドワイヤーが併用するカテーテルと絡まないように十分注意すること。
- ・*本品を使用中、偶発的な負荷により、本品が曲がる、折れるなど変形した場合には使用を中止すること。
- ・*手技中は、本品先端を X 線透視下で常に確認しながら手技を行うこと。特に、併用するカテーテルを動かす際や、キッキングを行う際など、本品を直接操作していない場合に、本品が血管に損傷を与えることがないか、本品先端の動きに常に注意すること。
- ・*インターベンショナルラジオロジー(IVR)での医療機器の使用については、併用する医療機器などの添付文書に従うこと。
- ・エクステンションワイヤーと本品を接続する際、本品の*疎水性コーットの境界部までエクステンションワイヤー接続部をしっかりと挿入すること。
- ・金属製のトルクデバイスを使用する場合は、本品を破損しないように慎重に使用すること。
- ・*全ての操作は無菌的に行うこと。

<相互作用>

- ・併用注意
併用するガイドワイヤー、カテーテル、医療機器等の添付文書及び取扱説明書に従うこと。また、本品のラベルでの外径を確認し、併用するカテーテル等との適合を確認すること。

<不具合>

本品の使用に際し、以下の不具合が生じることがある。

- ・ 折れ・曲がり
- ・ 破損
- ・ 断裂
- ・ 抜き困難
- ・ 剥がれ など

<有害事象>

本品の使用に際し、有害事象が生じることがある。なお、有害事象が重篤な場合には死亡や重大な合併症を*誘因する可能性がある。*ただし、有害事象は、これらに限定されるものではない。

- ・ 血管の損傷
- ・ 出血性合併症
- ・ 虚血性合併症
- ・ 末梢血管虚血
- ・ アレルギー
- ・ 遠位部(空気、組織、血栓性)塞栓
- ・ 低血圧/高血圧
- ・ 感染症及び穿刺部合併症
- ・ 血管攣縮/痙攣
- ・ 動静脈瘻
- ・ 徐脈/動悸
- ・ 大腿偽動脈瘤/偽動脈瘤形成
- ・ 動脈塞栓/血栓/閉塞 など

<その他の注意>

本品使用後は感染防止に留意し、医療廃棄物として処理すること。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

<貯蔵・保管方法>

保管の際には曲げたり重い物の下に置いたりせず、また水ぬれに注意し、高温、高湿、直射日光を避けること。

<有効期間・使用の期限(耐用期間)>

本品の製品ラベルに記載されている「使用期限」までに使用すること。
[自己認証(当社データによる)]

【包装】

・ 1～5 本/箱

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者: 朝日インテック株式会社

住所: 愛知県瀬戸市曉町 3 番地 100

電話番号: 0561-48-5551

製造業者: 朝日インテック株式会社

ASAHI INTECC (THAILAND) CO.,LTD.

(アサヒインテックタイランド) タイ

ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.

(アサヒインテックハノイ) ベトナム

